

「第5回（令和5年度 第2回）＋日田市文化財保存活用地域計画協議会」の主な意見

- 1 開催日時 令和5年12月27日（水） 13時30分～16時00分
- 2 場 所 日田市役所 本庁舎4階 庁議室
- 3 議 事 ・日田市文化財保存活用地域計画（素案）について【資料1・2】

4 議事内容

○配布資料1・2に基づき事務局から序章～2章について説明

- ・関連計画の中に名勝耶馬溪の保存管理計画も記載が必要である
- ・1ページの「もともと日田は水利の悪いところであったが、江戸時代後期に廣瀬久兵衛らが小ヶ瀬井路を開削し、市内に水路を巡らせた。」という記述はやや飛躍しているように感じる。水利が悪いことについては、「もともと筑後川の本流や支流が盲流する河原地形であったうえ、土地は水持ちが悪く、水利の便は決してよくない場所であった」というような説明で補うとよい。
- ・37ページの「⑦日田の町並みの形成」における南北に延びる道路の説明は、2本あったことを追記したほうがわかりやすいと思う。
- ・1ページの日田の水利の話は私も気になっていた。歴史文化の特性で豊かな自然と人々の営みが出てくるように、日田は基本的に豊かな水など自然に囲まれており、それらを効果的に使うようになった、という認識でまとめてもらえるとよい。
- ・関連計画に個別の文化財の計画が載せられているが、三隈川や鶉飼に関係する計画があればこの中に追加できるとよい。
- ・地域の地勢や自然は文化財に関しても空間的に捉えるために大事なものであり、そういった計画があればぜひ入れてほしい。

○配布資料1・2に基づき事務局から3章～7章について説明

- ・特性「(1) 美しい山々と清流に育まれた豊かな自然と人々の営み」と特性「(2) 水郷日田と共に営む人々の歩み」の書き分けが曖昧になっていると思う。特性(1)が山や地質について、特性(2)が水の話だと思うが、特性(1)にも「清流」と水の言葉が含まれている。
- ・日田の林業では、山で伐採した木を川で運んでいたように、山と水は重なり合うところもあり、なかなか分かち難いところがあると思うが、きちんと棲み分け検討したほうがよい。

- ・タイトルにどちらも「営み」が入っていることも境目が曖昧になっている要因ではないかと思う。
- ・山のほうにも営みがあるから入れたと思うが、あえて書かずともよいかもしれない。自然の部分の押し出したタイトルを作ってもおかしくはないと思う。
- ・タイトルはなるべく短くするほうが意味を伝えやすくなると思う。例えば、特性(1)は「美しい山々と清流」があるなら、「豊かな自然」は削ってはどうか。そのほか、「育まれた自然豊かな営み」や「育まれた自然の中での営み」、また「清流」を外すのであれば、「山々に育まれた営み」といった言葉はどうか。
- ・関連文化財群の構成文化財の並び順がバラバラである。種別ごとに集めて並べるなど、整理したほうがよい。
今の構成文化財の並べ方は物語の流れに合わせて整理しているわけでもなく、規則性がないため、種別ごとにするなど整理が必要である。関連性のあるものは繋げていくとよいが、例えば関連文化財群①では、杖楽とそれが奉納されている場所として神社がいくつか含まれているが、それ以外に何か意味はあるのかと疑問に思う。
- ・要するに問題は、ストーリーが構成文化財と上手く噛み合っていないということである。今は山にあるものを単純に並べただけの状態になっているが、神社の信仰、楽、森などを一連のものとして繋がりをもったストーリーを書いてもらえると、後ろの構成文化財も整理しやすくなる。
- ・ストーリーは要素を並べるだけではなく、読んだ時にその地域の面白味がわかる文章にすることが望ましい。山ではやはり木が恵みをもたらすものとして重要なポイントになる。木は日田の繁栄の源であることを踏まえて、様々な神社の祭礼との関係など、上手く繋がるようなストーリーを検討してほしい。
- ・山の恵みに関するストーリーは一つしか作れないのか。複数の要素があるため、一つにまとめるのは難しいと感じる。
例えば、小鹿田焼と鯛生金山の話をもどどのように一つにまとめるのかと考えると無理があるため、可能であれば分けるとよいと思う。
- ・ストーリーの数がそもそも少ないと思う。他市町村では10前後のストーリーを設けており、細かく分けることによってストーリーと構成文化財が綺麗にリンクしている。特に関連文化財群①は色々な要素が入り込んでいてまとまらない状態に見えるうえ、山の恵みと杖楽がどのように関係するか悩むところである。

- ・日田市の歴史文化の特性について、時代区分を超えて総合的に捉えようとしている方向性は評価したいと思う。60ページにある「まちづくり」は広く色々な意味を含んでいるため、もう少し具体的なものを追加してほしい。例えば文化財を巡り歩き体を動かすことによって健康を維持することや、文化財について考えることによって保たれる心の健康など、文化財を守ることで地域を作っていくという形で打ち出してもらえるとよい。65ページの⑫「学習機会の充実」に関して、例えば大分県の文化財保存活用大綱でも「児童生徒を主役とした展示等の体験」とあるように、もう少し踏み込んで書いてほしい。日田市では博物館や埋蔵文化財センターなどで小中学生の展示体験を行っていると聞いている。そういったことをもう少し具体的に書けるとよい。
- ・現状として色々活動が行われているため素案に反映されるとよい。「知る」の現状の一つとして、咸宜園放学遊山の会の活動は大変面白いもので、日田のまちをみんなで歩きながら紹介していくことは、文化財を見直すという意味では非常に重要であるため、素案に追加するとよいと思う。文化財の保存・活用に関する基本理念についても、「つなげる」や「守る」、「残す」ことが前に出ているが、その前にどうやって残すのかという段階をもう少し入れるとよいと思う。活用とまではいかないが、「磨く」などはどうか。そして最終的に「つなげる」ためには、先ほどまで出ていた教育や、咸宜園放学遊山の会などの活動が重要になってくるのだと思う。歴史文化の特性も再度見直しが必要で、特性「(4)江戸時代に栄えた日田」はインパクトがなく、中身が見えないと感じる。日田は、江戸時代以来民間リードで動いていく伝統が強く残っていることから、「民力が支えた日田」はどうか。特性(1)についても小鹿田焼や鯛生金山など色々な要素を一緒にまとめるのが難しいことを考えると、地域ごとのストーリーを作成したり、細分化したりすることも検討してみしてほしい。
- ・現状と課題において、全体的に「～できていない」や「～が必要である」が多いことが気になる。上位関連計画で掲げたことが効果的につながっていないように感じてしまう。また、全く同じ文章が何か所かに出てくるのも違和感がある。
- ・関連文化財群の現状と課題について、共通して「ストーリーに基づいた魅力の発信ができていない。」とあるが、この「ストーリー」が本計画で設定するストーリーを指すのであれば、今作っている途中でその魅力が発信できていないのは当然であり、書く必要はないと思う。
- ・今まで行ってきた取組などを現状に書いてもらえればよい。これまでも「水郷日田」や「天領日田」と物語性をつけて観光アピールなどをしてきたが、そこまで深掘りしてこなかったと思う。そういった経緯を入れることで本計画のストーリーにおける現状や課題について論理展開していけるとよい。

- ・計画の策定は出発点だと考えている。今後、近現代の文化財について検討を進めてほしい。近年は、高校で歴史総合という日本史、世界史関係なく近現代の歴史を学ぶ科目が必修となっていることもあり、地域の中で近現代の文化財を掘り起こすことは重要だと思う。

○配布資料 1・2 に基づき事務局から 8 章～9 章について説明

- ・災害は日田にとっては肝となる部分であり、これまでも上手くいかなかった部分がたくさんあるかと思う。いつも災害が起きると責任所在の話ばかりで、具体的な対策がされないまま次の災害が発生して流される、といった残念なことが何回も続いてきたため、失敗を踏まえて災害が発生する前にできることを考えていかなければならない。やはり皆さんに文化財がいつも身近なものとしてある、あるいは地域の宝として役に立っているということを認知してもらわないと、復興にも理解が得られない。災害が発生してからでは遅いため、そういった事前の仕掛けをどう作っていくかということをもう少し強調できるとよい。